

はじめに

本書の目的

本書は、簿記検定3級試験に最も容易に、かつ、確実に合格するために構成されています。このテキストをマスターすれば、合理的かつ最短に簿記検定3級試験の合格圏に入ることができます。

本書の特色・使い方

① 文章は簡潔に、かつ分かりやすくしました。

少ない時間で全範囲を勉強するには、楽に読める必要があります。そのため、本書は、なるべく文章を簡潔に、かつ、分かりやすくしました。

② 具体例を通じて学習できるようにしました。

試験において抽象的な知識は不要。むしろ、有害です。そこで、本書は生きた具体例を通じて、必要な知識をしっかりと身につけることができるように構成しました。

③ 試験に出題されるか、否かの重要度を各事項のはじめに明示しました。

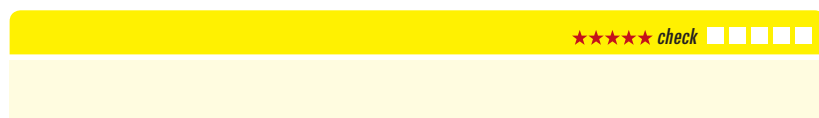
試験にあまり出ないところを一生懸命やっても無意味です。そこで、どこに力を入れて学習すべきかを各事項のはじめに、



の3段階で示しました。

④ テキスト内の内容にも重要度を示し、確認のためのチェックボックスを設けました。

■黄色枠で5つ星マークが記してある箇所は、最重要事項です。テキストの本文中や事項の最後にポイントとしてまとめてある場合があります。



■テキストの本文中の必須学習項目は、黄色以外の色枠で囲み、1～4つの星マークで重要度を示しています。

星マーク1～4で重要度を表記 チェックボックス



色枠は学習意欲向上の一助として、カラフルな色使いにしています。



■必須学習項目に関する参考項目については、同色で下記のように表示しています。

原則 ★★★★★ check

労働者を使用する事業は、その種類・規模に関係なく労働基準法の適用を受けます。

労働基準法別表1

この場合、「原則」に関する参考項目です。

労働基準法は事業の種類に関係なく適用されますが、労働時間など一部の規定については、事業の種類によって特例が設けられています。そこで労働基準法は、「別表1」において一定の業種の区分を列挙したうえで、特例の箇所ですそれを引用するという形をとっています。

■テキスト右ページ上部には、学習日の記録欄を設けました。学習進捗状況などの確認に役立ててください。



■テキストの各ページの下に「メモ欄」を設けました。講義を聞きながら、またテキストを読みながら、必要なことはどんどんメモ欄に書き込み、自分だけのオリジナルテキストに仕上げていきましょう。

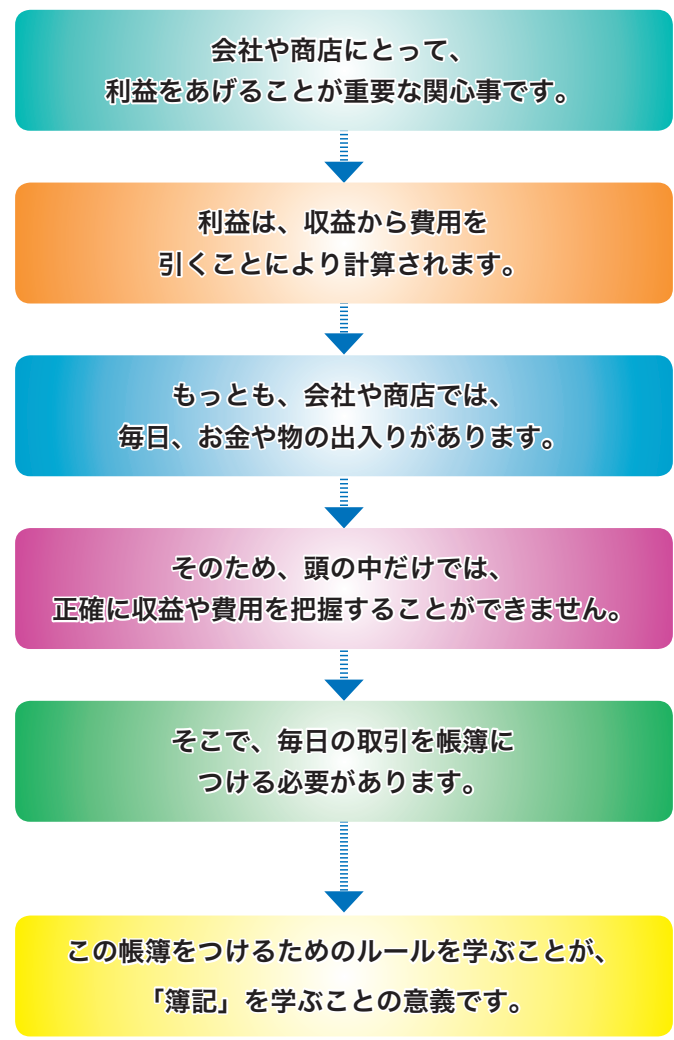
本書の利用により、一人でも多くの方が簿記検定3級試験に合格されることを、心より切望します。

フォーサイト教材作成室

STEP 1 簿記を始めよう!



なぜ、簿記を学ぶのか?



実際に、簿記をやってみよう! 1



ケース 1

商品を100円で販売し、現金を受取った。

借 方		貸 方	
現 金	100	売 上	100

- ① 日々の取引を、このように帳簿につけておくことを、**仕訳**といいます。
- ② **借方**と**貸方**という記載
借方 → 帳簿の**左側**の欄を意味します。
貸方 → 帳簿の**右側**の欄を意味します。
- ③ 「100」という数字 → 仕訳では、左右**同じ数字**になります。
- ④ また、「現金」や「売上」という記載は、**勘定科目**といいます。

ポイント

- ① 帳簿の**左側**の欄は**借方**。**右側**の欄は**貸方**。
- ② **借方**と**貸方**の数字は、必ず**同じ**にする。



実際に、簿記をやってみよう! 2



ケース 2

商品の宣伝のため、広告費500円を現金で支払った。

借 方		貸 方	
広 告 費	500	現 金	500

ケース 1 現金 → 増加 → ^{かしかた}借方に記入されています。

ケース 2 現金 → 減少 → ^{かしかた}貸方に記入されています。

ポイント

現金が増加する時は借方。現金が減少する時は貸方。



実際に、簿記をやってみよう! 3



ケース 3

銀行から800円借入れ、現金で受取った。

借 方		貸 方	
現 金	800	借 入 金	800

ケース 4

借入金800円を現金で返済した。

借 方		貸 方	
借 入 金	800	現 金	800

ケース 3 と ケース 4 を比較してください。

借入金 → 増加 → ^{かしかた}貸方に記入されています。

借入金 → 減少 → ^{かしかた}借方に記入されています。

「現金」の場合とは、逆になっています。これは、「現金」と「借入金」の性格が違うからです。つまり、現金は「資産」であるのに対して、借入金は「負債」だからです。

ポイント

資産が増加する時は借方。負債が増加する時は貸方。

ここで資産とは、現金の他に預金や売掛金、棚卸資産である商品や製品、土地や建物などの有形固定資産を示す総称です。

これに対する負債とは、借入金の他に買掛金や支払手形、未払費用や未払金などを示す総称です。



実際に、簿記をやってみよう! 4



ケース 5

現金700円の出資を受けて開業した。

借 方		貸 方	
現 金	700	資 本 金	700

資本金は、「**資本 (純資産)**」にあたります。そのため、^{かしかた}**貸方**に記入します。

ポイント

「**資本 (純資産)**」が増加する時は**貸方**。

ここで「**資本 (純資産)**」とは、資本金の他に繰越利益剰余金などを示す総称です。

これ以降、本書では「**資本 (純資産)**」のことを単に「**資本**」といいます。

なお、必要に応じて純資産という用語も使います。



実際に、簿記をやってみよう! 5



再び、**ケース 1** と **ケース 2** を具体例として使います。

ケース 1

商品を100円で販売し、現金を受取った。

借 方		貸 方	
現 金	100	売 上	100

売上は、「**収益**」にあたります。そのため、^{かしかた}**貸方**に記入します。

ケース 2

商品の宣伝のため、広告費500円を現金で支払った。

借 方		貸 方	
広 告 費	500	現 金	500

広告費は、「**費用**」にあたります。そのため、^{かりかた}**借方**に記入します。

ポイント

費用が増加する時は**借方**。**収益**が増加する時は**貸方**。

ここで**収益**とは、売上の他に受取利息や受取家賃などを示す総称です。

これに対する**費用**とは、広告費の他に売上原価や従業員に対する給料・賞与、水道光熱費や通信費、固定資産売却損などを示す総称です。

